

定例教育委員会【議事録】

日 時 令和5年10月6日(金)
9時30分～

場 所 岡谷市役所6階 605会議室
署名委員 太田教育長職務代理者
小平教育委員

【次 第】

○ 開 会

○ 教育長報告

○ 議 題

1. 令和5年度全国学力・学習状況調査結果について【資料 No.1】 (学びの創生・連携支援室)
2. 第4次岡谷市子ども読書活動推進計画について【資料 No.2】 (生涯学習課)

○ 報 告

1. 岡谷市教育委員会点検・評価報告書【資料 No.3】 (全課)
2. 令和5年度子ども・若者育成支援強調月間について【資料 No.4】 (生涯学習課)

○ そ の 他

- ・行事等について(各課)
- ・その他

出席委員

教育長 宮坂 享、教育長職務代理者 太田 博久、教育委員 高木 千奈美、
教育委員 藤森 一俊、教育委員 小平 陽子、教育委員 林 慎太郎

事務局(説明員)

教育部長 白上 淳、教育担当参事 両角 秀孝、教育総務課主幹指導主事 濱 敦志、
生涯学習課長 伊藤 恵、スポーツ振興課長 小松 隆広、図書館長 小坂 英之
教育総務課学校教育主幹 味澤 勝一、教育総務課教育企画主幹 西山 塁、
川岸学園設立準備室川岸学園設立準備主幹 新村 尚志、図書館主幹 増沢 洋子
教育総務課主任 大島 俊輔

<会議録>

○開 会

宮坂教育長： それでは、ただいまより令和5年10月定例教育委員会を始めます。本日の署名委員は太田教育長職務代理者、小平教育委員にお願いいたします。

○教育長報告

宮坂教育長： はじめに私から報告をいたします。

格別の寒さになってまいりました。我が家の庭にホトトギスという花が咲き始めました。鳥のホトトギスと同じで、白色にピンクの斑点がある花です。白いホトトギスが非常に強い花で、他の色のホトトギスを守るために植え替えたりしています。白いホトトギスは教育長室にもありますので是非ご覧になってください。

前回の定例教育委員会で白露について触れましたが、10月8日は寒露、10月24日は霜降です。大好きな秋が長く続いて欲しいですが、冬の訪れを感じています。

4期16年と長きにわたって、岡谷市の舵取りをしていただいた今井市長が9月28日に退任されました。翌日には早出市長が就任されました。まさに新しい岡谷市の歴史のスタートを感じています。このような場面に出会うと「不易流行」という言葉を思い出します。人や環境が変わっても、子どもや市民中心であることは変わらないと感じます。

教育総務課から2点報告します。

中学校の文化祭がございました。4校すべてを見たかったのですが、同時期に実施されたため、予定調整の結果、岡谷北部中学校に行くことができませんでした。広島平和体験研修に行ってきた生徒たちの発表を見てきました。子どもたちの発表が立派で、凛としており、とても嬉しかったです。自分の思いをどう伝えるか、先生とよく相談した結果が見えました。発表を深く見入っている生徒たちの姿も印象的でした。語り部の梶本さんのお話で

「死んだ方がましだと思ったことは何度もあった。でも捨てて良い命は一つもない。」という言葉がありましたが、その言葉を引用しながら命の大切さを語り掛けていました。最後に、

「心が動いた人がいたら、命の大切さについて考えてほしい」

と全校生徒に伝えていました。会場が静まり返り、生徒たちが命の大切さについて考えている様子が伝わってきました。この広島平和体験研修は岡谷市の宝だと思います。20人もの中学生を広島に送ってくれる、岡谷市行政の皆さんのお陰で、感動を得て他の人にそれを伝えようとする子どもたちがいます。いじめ根絶子ども会議や、広島平和体験研修、阿智村の満蒙

宮坂教育長：

開拓平和記念館への見学など、実体験をしながら平和について学ぶことをこれからも大切にしていきたいと思います。

カノラホールのアウトリーチ公演がありました。「初めてのクラシックシリーズ」ということで、プロの演奏家が生演奏を披露してくれます。今年は上の原小学校と湊小学校で実施されました。5つの楽器の紹介がありましたが、楽器の紹介だけでなく、演奏する人と楽器の出合いについても触れていて、子どもたちも人から学ぶことができたのではないかと感じました。演奏の後に、子どもたちとクイズを行うなど1時間ほどの公演でしたが、子どもと楽器の距離が縮まる、良い機会だと感じました。来年以降も楽しみにしております。

つづきまして、生涯学習課関係の報告をさせていただきます。「芸術の秋」「読書の秋」と言われるこの季節、絵画・写真・書道・華道・音楽・演劇など日々の活動の成果を発表する文化祭が開催されます。

カルチャーセンターでは、今年度も岡谷市文化祭実行委員会を設置し、10月21日にカノラホールで行われる市民舞踊祭を皮切りに、市民作品展、市民音楽祭、岡谷市美術会による岡谷展、市民伝統音楽芸能祭、岡谷演劇祭を開催します。

市民作品展については、初めて3公民館とカルチャーセンターの4館合同でカルチャーセンターを会場に行います。今まで以上に賑やかな展示になるのではないかと、今から楽しみにしているところです。

また、岡谷図書館では、10月28、29日に「子ども読書まつり」を開催します。

昨年は、コロナの影響もあり1日だけの開催でしたが、今年は2日間開催します。様々な企画を用意しておりますので、親子連れなど多くの皆様にご参加いただきたいと思います。お待ちしております。

先月24日には、本に親しんでいただくとともに役目を終えた除籍本の有効活用を図るため、岡谷市読書サークル協議会による「本のリサイクル事業」が行われました。約6千冊の本の中から、読みたい本を見つけていただき、新たな本との出会いもあったのではないのでしょうか。

この秋、身近なところで芸術や文化に触れていただき、新しい発見や感動、新たな趣味や生きがいなどを見つけていただければと思っております。

最後にスポーツ振興課関係を報告させていただきます。

初めに、9月23日に岡谷市民総合体育館で「岡谷市民ニュースポーツフェスティバル」を開催いたしました。「いつでも、どこでも、いつまで

宮坂教育長： も」をキャッチフレーズに、ニュースポーツの普及促進を図るほか、年齢、性別、障害の有無など関係なく、みんなで気軽に楽しめるイベントとすることを目的としたものであります。当日は、子どもから高齢者まで幅広い世代の40名の方が参加され、家族や同じグループでの交流を深めながら、和気あいあいと楽しいひと時を過ごされておりました。今回のフェスティバルをきっかけに、学校でのレクリエーションや世代を超えたコミュニケーションづくりに、大いに活用してもらえばと考えております。

次に、鹿児島県で開催される特別国民体育大会「燃ゆる感動かごしま国体」が明日10月7日に開幕いたします。今大会は、令和2年度に開催される予定であった『かごしま国体』が、新型コロナウイルス感染症の影響により延期され、今年度『特別国民体育大会』として開催されるものであります。岡谷市関係の出場者は、卓球やバスケットボールなど7競技に選手24名と、監督、コーチ4名の計28名となっており、先日、岡谷市関係者の壮行会を開催し、私も熱いエールを送らせていただきました。大会では、これまでの練習の成果を十分に発揮され、長野県や岡谷市の代表としての誇りを胸に、選手の皆さんの活躍を心から期待しているところであります。

太田教育長職務代理人： アウトリーチ公演につきまして、素晴らしい内容だと改めて感じました。このような機会がある子どもたちは幸せだと思います。この公演は全学年が対象なのでしょうか。

事務局（濱）： カノラホールで行われている「初めてのクラシックシリーズ」に合わせて各校を訪問していますが、学校によって規模が異なります。上の原小学校と湊小学校では4, 5, 6学年が対象でした。

太田教育長職務代理人： 可能ならこれからも続けていただきたいと思います。全小学校を毎年訪れるのは難しいとは思いますが、一度も見ることなく小学校を卒業する学年が出ないように調整をしていただきたいです。

高木教育委員： 文化祭で、岡谷東部中学校に行きました。吹奏楽の発表や、校内展示を見て回りました。展示品が本当に素晴らしく、丁寧に作られていました。社会科や総合的な学習の時間で作成した新聞などがありました。時間の関係で、それぞれをゆっくり読むことはできませんでしたが、とても感動しました。先生方も一緒になって制作したことが分かる内容でした。

宮坂教育長： ありがとうございます。それでは本日の議題に入ります。

議題1「令和5年度全国学力・学習状況調査結果について」を事務局からお願いします。

○議 題

1.令和5年度全国学力・学習状況調査結果について

<資料1に基づき、事務局より説明>

高木教育委員： 課題の部分で、「パソコン・タブレットなどのICT機器の活用が進んでいるが「ほぼ毎日・週3回以上」使っている児童生徒は少ない状況にある」とあります。活用状況が少ないことを課題としている理由は何でしょうか。もちろん、これからの時代を考えるとICT機器を活用していく必要はあると思いますが、「ほぼ毎日・週3回以上」使っていないことをどのように課題として受け止めているのでしょうか。

小平教育委員： 少し前の時代まではインターネットに懐疑的な時代があったと思いますが、今はICT機器も活用する時代になっていると思います。課題等を資料にまとめていただきましたが、この資料を読んだ保護者の方々が、具体的に何をすれば良いかが少し伝わりにくいと思います。例えばICT機器を活用したサポートの例を伝えることはできるのではないかと思います。課題の先の対応まで資料に含めていただければ保護者の方々にも伝わりやすいと思います。

事務局（瀧）： ICT機器の活用状況を課題に載せた理由ですが、全国の活用状況と比較すると岡谷市ではまだ活用状況が低いことをお示したものであり、ICT機器の活用自体が目標になってはいけないと思っております。なお、こちらは授業の中での活用状況であり、家庭でICT機器をどの程度利用しているかはまた別の設問にあります。まずは活用できる段階に、先生方になることが大切です。週3回程度授業で活用している先生は多くいらっしゃいますが、ほぼ毎日活用している先生は少ない状況です。先生方のICT機器を活用するスキルにもばらつきがあることも、課題として考えています。ICT機器を活用すれば子どもたちの学力が向上するかは、これから結果を見ていかなければならない部分だと思っておりますが、少なくとも活用の方法次第では個別最適な学びができると文部科学省からも言われています。一斉授業ではつけられない力をつけていく可能性があるということで、より良い活用方法を検討していく予定です。

保護者の方々への分かりやすい説明については、ICT機器の活用に関する設問につきましても、授業の中での活用状況であることも示されておりましたので、それも含めてお伝えしていきたいと思っております。

宮坂教育長： 保護者の方々が、今後の対応について明確に分かる資料になれば良いと思います。ご意見ありがとうございました。他にはいかがでしょうか。

太田教育長職務代理者： 小学生の成績は比較的高いのですが、中学生になると少し伸び悩む傾向

太田教育長職務代理人： があるのかと思います。小学生の結果を見てみると全国や長野県の平均とほぼ同じですが、中学生になると少し下がっています。先生方も意識されていると思いますが、学習意欲や、基礎的な学力がどれだけ身につけているかが大切かと思います。調査結果に繋がられるような学習ができればより良いと感じました。

事務局（濱）： 中学校に進むと成績が伸び悩むというお話をいただきましたが、令和5年に中学3年生の生徒が小学校6年生の時は令和2年でしたが、この年は全国学力・学習状況調査が中止となり、実施されませんでした。そのため、小学校時代との比較ができませんので、今後はそのような観点で見ていく必要があると思います。

現在岡谷市では小中学びの連携を進めており、小学校の先生が中学の授業を見たり、逆に中学校の先生も小学校の授業を見たりしてそれぞれの授業の良さを取り入れています。小学校と中学校の先生が共通認識を持つことで、より学びを発展させることができると思いますので、そのような視点で学力向上推進委員会でも話し合いを進めたいと考えております。

林教育委員： 設問一つひとつに意図があるのだと思いますが、毎年設問の内容は変わっているのでしょうか。

事務局（濱）： 教科に関する調査では、かつてはA問題とB問題に分かれておりました。A問題が基礎的な学力問題で、計算問題や漢字などの問題です。B問題が発展的な学力問題で、長文を読解して解答する問題です。今はA問題とB問題が一体化しています。

生活習慣や学習問題等に関する質問紙調査では、国が調査をしたい内容も含まれており、本年度は英語のテストがあったため、外国語教育や国際理解に関わる設問が多く入っておりました。そのため設問も毎年若干変わっています。

一方で例年同じ設問も実施しており、経年で比較、分析をしている状況です。

林教育委員： 私たちが子どもの頃と比べると、テストの問題や勉強の内容も少しずつ変わっていると思います。しっかり読まないと回答ができない問題が多くなっている印象です。変化に合わせて先生方の指導方法も変わる必要があるのかと思います。今は全国平均だとしても、時代の流れが速いので、ついていけなくなることがあるかもしれません。先生も子どもも大変だと思いますが、調査で見えてきた課題を解決できるような環境作りを進めていただきたいと思います。

小平教育委員： 意外と読書好きな子どもが多くて嬉しく思っています。学校訪問で図書

小平教育委員： 館の先生と、ライトノベルのような比較的読みやすい本がたくさんあることを話したことがあります。読書も時代の変化に合わせて変わっています。ライトノベルがあまり好きでない方もいるとは思いますが、活字に触れやすいジャンルだと思いますし、それで読書を楽しんでいる子どもたちもいることは良いことだと感じました。

別の設問で、話すことが苦手と感じている生徒が多いという結果が出ております。ここでもICT機器を活用して、何かサポートができるのではないかと感じました。例えば機器に向かって話したりすることで、苦手意識を無くすといった活用も面白いと思います。

他にも、「個に寄り添い一人一人を伸ばす学びを推進する」という説明がありましたが、ここに非常に期待をしております。個性が尊重される時代です。先生が一人で全生徒の学力を伸ばすのは物理的に難しいと思いますし、それを解決する手段の1つとしてICT機器があると思います。そのため、岡谷市の活用の状況が少ないのなら、これから強化する必要もあると思います。例えば体育の授業で鉄棒の逆上がりができない時、最後まで先生がサポートすることは時間的に難しいこともあると思います。逆上がりのコツも検索すれば分かる時代なので、ヒントを先生が与えるだけでも先生と子どものサポートができていないかと思しますので十分に活用していただきたいと思います。

事務局（瀨）： 「個に寄り添い一人一人を伸ばす学び」につきまして、先日教育情報誌のある記事を読みました。

計算ドリルをやっている子ども達の中に、計算が得意な子がいて、その子はドリルをどんどん解いて、先生に見せに行きました。先生は授業でやっているのはそこではないから、解いた問題を消しゴムで消しなさいと指導した、という記事でした。

今まではこのような学習が教室内で行われていたのではないかと思います。先生の授業のスピードに合わせる事が大事で、その先には進んではいけないという授業もあったと思いますが、できる子がどんどん進めることは良しとしていく心持で先生方が子どもの学びを見ていくことが大切だと思います。普段の教室で行われていることから見つめ直し、個に寄り添った学びができるように支援をしていきたいと思っています。

宮坂教育長： 委員の皆様から貴重なご意見をいただきました。

毎年の数値で一喜一憂するのではなく、どこが伸びているか、もっと伸ばすためにはどうすれば良いかを引き続き大切にしながら、より良い授業に繋がりたいと思います。

宮坂教育長： それでは議題1につきましては以上とさせていただきます。続きまして議題2「第4次岡谷市子ども読書活動推進計画について」を事務局よりお願いいたします。

2. 第4次岡谷市子ども読書活動推進計画について

＜資料2に基づき、事務局より説明＞

太田教育長職務代理者： 他の自治体の読書計画については存じ上げていませんが、岡谷市は丁寧できめ細かい計画を策定し、推進しようとしていることに敬意を表したいと思います。

私の個人的な思いとして、読書は極めて内面的でプライベートな行為だと思っております。例え親でも立ち入ることができない性質の行為であり、だからこそ強制的に読ませるものではなく、自ら読むことが大切だと思います。そのためには触れる機会さえしっかり確立されていれば、あとは本人次第だと思います。ですが読書に関する施策の進捗状況を図る際は、どうしても貸出数に重点を置くと思います。貸出数より図書館に来た回数や過ごした時間が大切なのではないかと思います。私は、本のある場所が心地よく感じます。どうしても心地よいかはわかっていませんでしたが、先日ある方から、一生をかけても読めない本がほとんどで、それだけの本が図書館にはある、と感じることがとても大切であると聞きました。少し大げさですが人類が積み上げてきた知識の財産に対して畏敬の念を持つことができる場所が図書館であり、それこそが図書館の存在意義でもあるのではないかと仰っていました。

紙の本は物理的に存在しているので、視覚的に膨大な情報の蓄積を目で見ることができます。デジタルの本ではできません。だから、私も図書館には非常に大切な存在意義があるのだと思います。図書館に来て、本のタイトルを見たり、パラパラめくったりするだけでも良いのではないかと思います。

最近全国で新しい図書館もできていて、手に届かないようなところに本がたくさん並んでいる図書館もあって、どうしても手に届かないようなところにも本を並べるのか疑問に思っていました。本があるということだけでも意義があるのだと今は思っています。

本を借りてもらうことも大切だとは思いますが、図書館で過ごすことに向か性を見出してもらうことも良いのではないかと思いますのでご検討ください。

事務局（小坂）： 読書活動推進計画につきましては全国の図書館で策定をしております。

事務局（小坂）： ただし内容は様々です。私たちが今回の計画では、わかりやすく、成果に繋がる内容にするため、委員の皆さんと協議を進めてきました。本に親しむには3歳から5歳までの小さい頃が大切であるという意見を多くいただいており、そういったところにも重点を置いております。

指標につきまして、貸し出し数がすべてではないとのご意見もいただいております。そのため数字ではなく、文言での評価でも良いのではないかと考えております。この事業を行うことで子どもたちがどう感じたかが大切ではないかとのご意見も、計画に盛り込んでいます

「心地よい図書館」につきまして、保育園の園児や、外国人の皆さんに来ていただき、現場を見て感じていただいております。

それから紙の本とデジタルの本につきまして、それぞれの良し悪しがありますけれども、両方の良いところを活用できるように調整する予定です。

最後に図書館のあり方につきまして、岡谷図書館は40年以上経っている古い建物です。ですが機能面で劣っている訳でなないため、職員の対応を含めて、来館者に温かくお迎えして過ごしていただけるような雰囲気も作りたいと考えております。

高木教育委員： 人口減少が進む中で、数字だけでは表せない所を、言葉で評価していくことはとても大切だと思いますし、現場の人の意見を取り入れることも大切だと思います。意見を取り入れる際は、ぜひ対面で意見を聞き取っていただきたいです。人と人のつながりもできます。読書は字を相手にしますが、人との繋がりも大切にしていきたいと思います。

それから、各学校でボランティアの方に取り組んでいただいているというお話がありましたが、本当にありがたいことだと思います。ぜひボランティアの方同士で意見交換をしていただき、より良い活動に繋げていただきたいと思います。

保育園にもボランティアの方が入ってくださっているのです、市でも取り組み状況を把握していただければ、すべての保育園に平等に本に触れる機会ができると思います。

今の時代、イベントで人を集めることは非常に難しいと思います。身近な場所での読書環境を整える取り組みについて、地域の子育てサークルや育成会にこちらから出かけることも大切だと思います。今後積極的に取り組んでいただきたいと思います。

事務局（小坂）： ボランティアの関係で、熱心に活動している図書委員の方もいらっしゃいますので一緒になって活動をしたいと思います。それから反省点として

事務局（小坂）： 保育園との連携が今までは少なかったため、これから連携を進めてまいりたいと思います。

こちらから人の集まる場所に出かける、というご意見いただきましたが、今年は子ども食堂に出かけて読み聞かせを実施しました。今後も積極的に取り組む予定です。

林教育委員： 実際に携わる中学生の意見も取り込めれば良いのではないかと思います。大人だけで計画を作ると、過去の自分の経験から発想を得ることも多いと思います。子どもを取り巻く環境も大きく変わっていますので、子どもから意見をもらうことも面白いと思いました。

小平教育委員： 図書館の役割は、本との出会いの場であり、心地よい空間であることだと思います。イベントで集客することは難しいですし、何より皆さん忙しいと思います。そのため子ども食堂とのコラボは素晴らしいと思いました。読書を強く主張するのではなく、本に触れる機会を作る意味で素晴らしい活動だと思いました。

応対について館長さんからお話ありましたが、例えば岡谷図書館にしかない、このエリアの貴重な資料もあるので、蔵書についての知識がある職員の方がいて、指し示してくださるということも図書館の大切な役割だと思います。

また、個人的にブックカフェが好きでして、市町村の図書館では難しいとは思いますが、飲食を含めて本と過ごせる取り組みもできたら良いと思いました。

宮坂教育長： ありがとうございます。

本と出合うという言葉があります。人と同じように「であう」と表現されることが凄いことだと思います。読育という言葉も好きで大切にしたいと思っております。

本計画を道標として、岡谷で生まれ育つ子どもたちが、ふるさと岡谷に誇りと愛着をもち、本との出会いで得た感動や楽しさと知る喜びを体験しながら、何事にも主体的に取り組む姿勢や自己肯定感を身につけ、たくましく成長することを目標としております。皆様からいただいたご意見も含めながら、計画の策定を進めますので、どうぞよろしく申し上げます。

それでは議題2につきましては以上とします。続きまして報告事項1「岡谷市教育委員会点検・評価報告書」について事務局より申し上げます。

○報告事項

1. 岡谷市教育委員会点検・評価報告書

<資料3に基づき、事務局より説明>

高木教育員： スポーツ関連の利用者につきまして、コロナ前と比べて現在どのような状況でしょうか。

事務局(小松)： 281,000人の利用がありましたが、コロナ前と比べると利用者は少ない状況です。徐々に回復傾向ではあります。

宮坂教育長： ありがとうございました。
次に報告事項2「令和5年度子ども・若者育成支援強調月間について」につきまして、事務局よりお願いします。

2. 令和5年度子ども・若者育成支援強調月間について

<資料4に基づき、事務局より説明>

宮坂教育長： ありがとうございました。
次に「その他」につきまして、事務局よりお願いします。

○その他

・行事等について(各課)

<各課より行事予定について説明>

宮坂教育長： ありがとうございます。
その他連絡事項等ありますでしょうか。
今までのところで何かご意見等はございますか。
本日より予定しました議題は以上ですが、全体を通して何か質問等ございますか。

教育委員さんから何か報告事項等ございますか。

それでは事務局より次回の開催予定についてお願いいたします。

事務局(両角)： 次回の定例教育委員会は
11月9日(木) 9:30～ 岡谷市役所6階 605会議室を予定しています。
よろしくお願いたします。

11時30分 終了

岡谷市教育委員会会議規則第20条により署名する。

令和 5 年 11 月 9 日

教 育 長

宮 崎 享

署 名 委 員

太 田 博 久

署 名 委 員

小 平 陽 子

調 製 職 員

白 上 淳